

2026 年度 事業計画書

※2026 年度は 2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日の期間を指します。

はじめに

震災から 15 年が経過した現在、当財団は引き続きアムウェイハウスを拠点としたコミュニティ再生支援を継続するとともに、これまでの東北支援で培った経験を活かし、新たな社会課題への取り組みへと活動の幅を広げてまいります。

2022 年に開始した「Tomorrow HOPE プロジェクト」では、こどもの貧困と心身の健康を支援することを目的に、経済的理由により進学が困難なこどもたちに奨学金を提供し、2025 年 3 月末時点で 33 名の支援を実施しました。来年度は奨学金支援に加え、NPO キッズドアとの協働により、新たに食料支援にも取り組みます。

また、新たな柱となる活動として昨年度発表した、地域の持続可能な発展に資する農業支援プログラムについては、コンセプト設計を終え、いよいよ実装段階へと進みます。

さらに、これまで継続的に実施してきたクリーンアップ活動についても、内容を一層充実させ、より多くの方々に参加いただける形で展開していく予定です。

当財団は今後、活動の中心を日本のさまざまな社会課題の解決へと広げ、持続可能な社会の実現に向けて一層尽力してまいります。

具体的な事業内容は下記のとおりです。

I. 東北復興支援

1. 事業の目的

東日本大震災で失われた地域コミュニティの再生を支援し、地域住民が継続的に交流できる環境づくりを促進することを目的とします。

2. 事業内容

(1) コミュニティハウスの維持管理および地域活動支援

コミュニティハウスのメンテナンスを実施するとともに、地元運営パートナーと連携し、地域交流やコミュニティ活性化に資するプログラムを支援します。

(2) 次世代リーダー育成プログラムへの支援

「TOMODACHI Women's Empowerment Program 2026」において、東北 3 県から女子大学生 3 名を支援し、半年間のリーダーシップ育成プログラムを通じて、国際的な視野と実践力を養う機会を提供します。

(3) 支援活動の情報発信

定期支援者に対して活動報告を行うとともに、東北支援の継続的な必要性について情報発信を行います。

II. 経済的支援を必要とするこどもとその家族への支援

1. 事業の目的

日本の社会課題である「こどもの貧困」に対し、教育機会の確保および生活支援を通じて、こどもたちの将来の可能性を広げることを目的とします。

2. 事業内容

(1) 奨学金給付事業

経済的理由により大学・専門学校などの高等教育への進学が困難なこどもたちに対し、返済義務のない奨学金を給付します。

(2) 食料支援事業

NPO キッズドアとの協働により、学校給食が提供されない夏休みおよび冬休み期間において、食料支援ボックスを提供します。

また、ABO による支援品の説明書き封入や梱包作業などのボランティア活動を実施し、参加型の支援機会を創出します。

3. 事業規模

- ・奨学金支援：年間約 10 名
- ・奨学金給付額：月額 5 万円
- ・入学・卒業お祝い金：各 10 万円
- ・食料支援：夏休み・冬休み 各約 2,000 世帯

III. 持続可能な発展に資する農業支援

1. 事業の目的

地域の持続可能な発展に寄与する農業分野の研究および実践的な取り組みを支援することを目的とします。

2. 事業内容

持続可能な農業の推進に資する研究や取り組みを対象とした研究助成事業「持続可能な農業の未来づくり研究助成」を実施します。

3. 事業規模

- ・助成額：上限 100 万円／件・年
- ・助成期間：最長 3 年間
- ・採択件数：約 10 件（予定）

III. クリーンアップ活動

1. 事業の目的

環境保全および地域社会への貢献を目的として、参加型のクリーンアップ活動を推進します。

2. 事業内容

日本財団スポ GOMI 連盟との共催により、スポーツ感覚で楽しみながらごみ拾いを行う「スポ GOMI 大会」を開催します。

これにより、環境意識の向上を図るとともに、ABO のエンゲージメント向上およびアムウェイブランド価値の認知向上に寄与します。

V. 財団運営

1. 運営方針

財団の持続的かつ適正な運営体制を確立し、長期的な社会貢献活動を実現します。

2. 主な取り組み

- 透明性の高い会計および運営プロセスの維持
- 定期的な理事会・評議員会の開催によるガバナンスの確保